

2001.3.24 sat.
at Kyoto-Bunkahakubutsukan
α-Image Artist

石原千宝美
SPECIAL LIVE

会場を満たした
クリアな歌声とハート

ちょっと緊張気味(?)のオーディエンスの前に、元気よく裸足で駆け込んできたのは1月~3月度のα-Image Artist、石原千宝美サン。京都文化博物館・別館のモダンなホールとピアノ&ギターの演奏をバックにライブはスタート。体全体で伝えてくる彼女の伸びやかな歌声は、この日がデビューしてからちょうど2ヶ月目&初のワンマンライブのW記念日とは思えないほど。彼女が敬愛して止まないキャロルキングさながらの艶やかなバラードに酔いしれて、声の主もさぞかしとりされたお方に違いない...と思いきや、実はファンから「千宝美ちゃん2時間しゃべりっぱなしなんじゃないの?」と心配されるほど。しなやかなバラードにジャクソン5などのポップなカバー、笑顔いっぱいMCと、いつしか会場は緩急入り乱れた千宝美ワールドに。

緊張も吹っ飛んだ、
初のワンマン!

「初めてのワンマンだったから、『ほんとに私を見に来てくれるの? 私? 私であってる?』ってみんなに訊きたかったくらい(笑)。いつも以上に、めちゃめちゃ緊張したし」とライブ後の興奮冷めやらぬ千宝美サン。「デビュー前からライブを何本もやってきたのも、CDでは伝わらないものがあると思ってたから。目の前に私の歌を聴きに来てくれたお客さんがいることで生まれる空気や、出すことのできる力ってあると思う」とも。ライブを行うためのハコ探しをしている中で、下見に訪れた京都文化博物館・別館に、「初めてホールに入った瞬間、雰囲気バツグンで即決」。音が響きすぎるかも、と当初心配していたのも「いい具合の天然リバーブになったみたいで、伸びやかな声をた〜っぷり披露。

ライブ終了後、22時からは通常通り「music sprout」がスタート。ライブの様子がオンエアに。「会場で配ったアンケートを『持って帰って家で書きます』って後から番組中にFAXが届いたり、『帰る途中だけど、メールでメッセージ送ります』って番組にメールが届いたり、ライブが終わった後もリスナーと繋がってるって気持ちがいっぱいだったし、みんなもきっとそれぞれ楽しんでもらえたみたいで、大満足!」。もちろんリスナーも大々満足で、春の宴は幕を閉じたというワケ。



PROFILE

1975年生まれ、愛媛県出身大阪育ち。ミュージシャンを志望して上京。ライブハウスで地道に活動を続けるうち、FM局で流れたデモテープにリクエストが殺到。デビューにつながった。2001年1月24日、シングル「冬の匂いが消える頃」でデビュー。α-STATIONでは1月~3月の3カ月間「music sprout」でパーソナリティをつとめ、多くのリスナーを虜に。

ディスコグラフィ
Debut Single
「冬の匂いが消える頃」
2001.1.24 In store

